

JA営農指導員が、稲の管理指導や説明を行う
高品質米の、収量増加を目指す



▲生産者と共に各圃場の稲の生育状況を確認する

JAでは7月19日から23日まで、稲の生育を診断する『あぜ道』巡回を実施しました。
 今年は春先の低温や、降水量・日照不足による影響が心配されましたが、生産者の懸命な管理と天候の回復で、生育は平年並みとなりました。担当者は「天候の回復等で出穂は早まるが、登熟の進行は遅い印象。今後は夏場の猛暑に備え、湛水や水の入れ替えて根の活力維持に努めてほしい。またカメムシの大量発生が予想されるので、水田内のノビエやホタルイ等の除草に心掛けてほしい。」と呼びかけていました。



生産者に対し、出荷規格の確認等を行う夏ねぎ目揃会が、7月25日に能代野菜センターで開かれました。
 目揃え会には、生産者・JA・市場関係者など約100名が参加。今年は降水量が平年より少なく、春先の低温も影響し、生育は1週間ほど遅れています。担当者は「今後気温や降水量の増加で生育が促進されるため、適期収穫に努めてほしい。また白絹病が多発傾向にあるほか、軟腐病・黒斑病・ネギアザミウマ等が発生しやすい環境となるため、早め早めの防除が必要。」と呼びかけました。

主力作物「ねぎ」が、いよいよ出荷スタート
収穫期を目前に控え、夏ねぎ目揃会を開催



▲ブランド強化に向け出荷規格を確認



第11回JA共済学童野球が、7月20日と21日に二ツ井球場で開催され、出場6チームがしのぎを削りました。

JA共済学童野球を、二ツ井球場で開催
管内の児童たちが、練習の成果を発揮



▲逆転打を放つ二ツ井野球スポーツ少年団

第11回JA共済学童野球が、7月20日と21日に二ツ井球場で開催され、出場6チームがしのぎを削りました。
 2日間とも天気に恵まれ、ベンチやスタンドからの応援を背に、選手たちはグラウンドで躍動しました。1回戦から白熱したゲームが展開され、決勝には二ツ井野球スポーツ少年団と、四儘ジュニアスポーツ少年団が勝ち上がりました。試合は四儘がリードしていましたが、6回裏に二ツ井が怒涛の攻撃で逆転し、見事優勝を勝ち取りました。優勝チームは、9月14日から行われる全県大会に出場します。

